

授業科目名	教育心理学	教員名	野崎 秀正	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	
科目番号	SEN103	配当年次	1年後期	卒業要件	こども音楽療育士	必修
単位数	2単位				小幼コース	必修
科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
一般目標	<p>教育心理学の授業では、幼児、児童及び生徒の学習過程や発達過程を理解し、より効果的な教育を展開するための素地を形成することを目標とする。具体的な一般目標・到達目標は以下の通りである。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>					
到達目標	<p>(1) 従来の研究で明らかにされてきた教育心理学の理論や知見の理解を通して、洞察に満ちた幼児・児童観、教育観を形成し、それらを自分の言葉で説明できる。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の心身の発達とは何かについて理解し、その過程及び教育との関係について理解する。</p> <p>(3) 幼幼児、児童及び生徒の学習過程において重要になる認知、記憶、思考、行動等の心的特徴を理解する。</p> <p>(4) 教育心理学の知見の応用としての具体的な教育実践の方法について考えることができる。</p>					
授業の概要	<p>教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。この授業では、人の心身の発達と学習の過程に関する教育心理学の基礎的事項について学ぶ。特に幼稚園及び小学校の教育過程における幼児・児童の心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の知識や考え方について学ぶ。さらに、各発達段階における発達の特徴や幼児・児童1人1人の個人差に応じた教育的対応についての理解を深め、教育現場における主体的、対話的で深い学びを実現するための教育心理学に基づく基礎的な知識や考え方を習得する。また、授業形態は講義であるが、グループでの話し合い等アクティブラーニングの要素を部分的に取り入れることにより、論理的思考力、コミュニケーション能力、創造的な問題解決能力等、教師に必要な汎用的能力を伸ばすことも期待される。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業計画	<p>第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。（目標(1)）</p> <p>第2回：発達の原理とその規定因について理解する。特に遺伝要因と環境要因の相互作用の影響を中心に、教育が発達に果たす役割について学ぶ。（目標(2)）</p> <p>第3回：発達と教育の関係について、レディネスや最近接発達領域（ZPD）の考え方を中心に学ぶ。（目標(2)）</p> <p>第4回：行動主義心理学における学習の定義と基本的な考え方について理解する。特にS-R説を中心とした学習のメカニズムについて学ぶ。（目標(3)）</p> <p>第5回：行動主義心理学に基づく学習のメカニズムに基づいた、実際的な人間の学習場面への応用について理解する。（目標(3)）</p> <p>第6回：記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。（目標(3)）</p> <p>第7回：行動主義心理学以降に登場した洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認</p>					

	<p>知説)について教育との関係から学ぶ。(目標(1)(3))</p> <p>第8回:知識の習得とその活用(情報処理と表出の過程)及び問題解決の過程に関する学習について、認知心理学の基礎理論から学ぶ。また、そうした認知・思考の特徴を踏まえた適切な学習指導の方法について考える。(目標(3))</p> <p>第9回:動機づけとは何かについて、特に学習場面において重要な達成動機づけに関する基礎的理論から学ぶ。(目標(3))</p> <p>第10回:動機づけの形態(内発的動機づけと外発的動機づけ)に関する動機づけ研究の発展的経緯と展望について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけについても学ぶ。(目標(3))</p> <p>第11回:発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。(目標(3)(4))</p> <p>第12回:学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。(目標(3)(4))</p> <p>第13回:教育場面での評価の形態(絶対評価、相対評価、個人内評価等)について学び、その特徴を理解する。(目標(3)(4))</p> <p>第14回:状況論(社会的構成主義)に基づく学習観の理論とそれに基づく新しい学習観の考え方について学ぶ。(目標(1)(3))</p> <p>第15回:ジグソー学習等の仲間同士の協同による学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。(目標(3)(4))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>課題として提出するレポート等の内容と期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合は課題等の評価が全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。なお、レポート等課題へのフィードバックについては、授業にて口頭で行う。</p>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習:毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習:学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
テキスト	<p>授業毎に資料、ワークシートを配付する。</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書:「幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針」 文部科学省・厚生労働省 チャイルド本社</p> <p>「小学校学習指導要領」</p> <p>参考資料等:適時提示する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します。</p>
オフィスアワー	<p>メール等で連絡をしてアポを取ること。</p>